令和５年度　研究の概要

指導法研究Ｂ１②グループ

㊞宝神中　池戸　洋仁　　黄金中　蜂須賀　優佑　　南陽中　宮松　卓矢

港明中　伊藤　晴弥　　大森中　神田　啓次郎

学びに向かうことのできる生徒の育成

１　研究のねらい

学習指導要領の中で「学びに向かう力」は、「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度」と定義されている。私たちは、このような力を身に着け、継続的に学びに向かうことができるようにしていきたいと考える。

生徒の実態として、少し考えて分からないとあきらめてしまう生徒がいたり、答えが出たことで満足して考えを深めようとしなかったりする生徒がいる。そこで、自らの考えをもつことが必要であると考えた。部分的に分かったことから答えに近づけるようにヒントを出したり、既習事項を想起させたり、自らの考えをもつことで粘り強く考えさせることができるようにしていく。また、自らの考えや解法を共有することも必要であると考えた。他者の解法と比較検討を行うことで、自らの考えの良さや考えの妥当性を吟味したり、他者の考えの良さに気づいたり、共有することで、問題解決の評価・改善につながるようにしていく。

２　研究の内容

研究のねらいにせまるため、次のような手立てを講じる。

⑴　自ら考える場面の設定

既習内容の確認をしたり、考えの方向性がもてた生徒にヒントとなる言葉を聞いたりすることで、自分の考えをもたせていく。また、様々な解法や考え方のある問題提示を行い、考えることへの意義をもたせていく。

⑵共有する場面の設定

自ら考える場面で出てきた解法について、ロイロノートなどを活用し、共有を行っていく。互いの解法を比較検討することで、自分の解法の妥当性を考えたり、より良い解法を考えたりできるようにする。